

理学療法のかかわる疾病・障害の領域は幅広く、そのいずれにおいてもすでに起こってしまった障害に対応するだけでなく、予防的に対処することが求められている。本特集では介護予防領域に加え、それ以外の「予防」と理学療法にも焦点をあて、それぞれの領域での現状と課題、具体的な予防的アプローチを例示していただき、今後の展望についても触れていただいた。

■生活習慣病の予防と運動（鈴木隆雄論文）

生活習慣病の予防について、国民運動の視点から 2012 年 6 月の改定された「健康日本 21 (第 2 次)」から今後の日本人の運動習慣や運動量の目標設定の考え方と意義を述べるとともに、高齢期における疾病予防と介護予防の視点からも運動の重要性について概説した。

■産業保健領域における予防と理学療法（高野賢一郎論文）

産業保健領域 (occupational health) とは労働者の健康対策を行う領域であり、労働安全衛生法に基づいている。主な目的は企業で働く勤労者の健康障害の予防と健康の保持増進である。この分野の専門職には産業医、保健師、衛生管理者がおり、情報の提供、評価、助言などの支援を行うこととなっている。今回、筆者らが実践している産業保健領域への理学療法のかかわりについて、予防的アプローチの具体例を示しつつ紹介する。

■スポーツ傷害の予防と理学療法（柏山達也論文）

スポーツ傷害予防へのアプローチは、世界中の研究者が動向を注目しているトピックである。スポーツ傷害の発生要因は多岐に及ぶため、理学療法士は専門性を活かした機能的視点に立ち、その本質を見極めていく必要がある。本稿では、スポーツ傷害における世界的趨勢から、臨床的な予防法まで紹介し、理学療法士が果たす役割について考察する。

■片麻痺の姿勢変化の予防と理学療法（馬場孝浩論文）

車いすシーティングを用いた環境的アプローチは、生活の視点から片麻痺の姿勢変化の予防を実現する方法の一つであり、効率のよい安全な動作を獲得し関節拘縮をつくらないという観点からも重要である。本稿では、片麻痺者の車いす座位姿勢についての問題に対する具体的な改善策について回復期リハビリテーション病棟に入院されている症例提示をしながら紹介する。

■脊髄損傷者の褥瘡予防と理学療法（森田智之論文）

在宅脊髄損傷者の褥瘡予防は多職種の関与によって、より効果を発揮する。そのなかで理学療法士の役割は身体機能評価と車いすを中心とした周辺環境との適合が中心となる。まずは問診で本人たちが考えている問題点、ニーズ、生活パターンを把握する。そして局所観察、車いす上姿勢評価、マット評価、クッションの評価、動作能力評価、圧力計測を実施する。これらの評価結果を統合し、問題点を明確にして介入することが重要である。

■心不全の再発予防と理学療法（神谷健太郎論文）

長寿社会の到来と急性期医療の進歩に伴い、慢性心不全患者が急増しており、心不全パネミックとも呼ばれている。慢性心不全患者の 4 人に 1 人は退院後 1 年以内に再発し、入院を余儀なくされる。ハイリスク患者をいかにしてトリアージし、どのような予防策を立てればよいのか、理学療法士が予防活動の最前線に立って活躍することが期待されている。